似島ホタルの里 通信Vol.1

活動のすべて

ニノシマボタル
（ヘイケボタル）

平成１３年度	地元似島からホタル保護の声があがる。
平成１４年度	現地調査によりホタルの生息を確認。
平成１５年度	全島の水系を調査し、ホタルの生息域を確認。
平成１６年度～	ニノシマボタルを育てる里人として「似島ホタルの里」を整備する活動を開始。 （調査から計画づくり、環境整備作業、餌となる貝の放流など）

今年は観賞会が開けるほどのホタルが飛び交っていました。
（乱舞するほどの数ではなかったけれども・・・）

この活動は、「ニノシマボタルを育てる里人」や在島の有志により、似島に昔から住んでいるヘイケボタルをはじめとする、さまざまな生物が生息する湿原環境の復活、またそれらの生物を誰もが身近に観察できるフィールドづくりを目指して、環境整備などに取り組んでいるものです。

今日にいたっては、第一段階としてのホタル生息地の環境整備が完了したことにより、継続してメンテナンスを行うとともに、「ニノシマボタル」というブランドのPR活動に取り組んでいるところです。

Q：『ニノシマボタル』ってな～に？

A：”似島産”のヘイケボタルのことで、この活動の中であえて命名したものです。

編集：ニノシマボタルを育てる里人（南区魅力発見委員会）
発行：南区役所市民部区政振興課

坂本博士の昆虫コーナー

ニノシマボタル（コウチュウ目、ホタル科）：Luciola lateralis Motschulsky

ニノシマボタルとは似島に生息するヘイケボタルのブランド名で、保護活動を通して里人の皆さんに似島を意識してもらい、また、多くの人々に興味を持ってもらうことを期待して付けられたものです。

ホタルの種類と分類　：ホタルはホタル科に属するコウチュウ類の仲間で、世界では約３０００種、日本では４２種が知られていて、広島県からは８種が記録されています。
ヘイケボタルの分布　：北海道、本州、四国、九州、千島（シベリア東部）
ニノシマボタルの生態：ほとんどのホタルの幼虫は陸にすみ、カタツムリや陸生貝を食べています。つまり、幼虫が水中で生活するゲンジボタルやヘイケボタルはきわめて例外的な存在なのです。似島からは、ニノシマボタルの幼虫の餌としてサカマキガイ、ヒメモノアラガイ、ヒラマキが確認されていて、保護地ではサカマキガイが主食となっています。成虫は口器が退化していて水分以外を摂ることはできません。成虫は５月下旬～７月中旬に出現し、例年６月上旬頃に最も多く見られます。
天　敵：成虫では、湿地の草間に巣を張るクモ類が最大の天敵だと考えられます。また、幼虫の場合は、カビや線虫などのほか、保護地ではオオシオカラトンボの幼虫（ヤゴ）による捕食が、生存率低下の大きな原因となっていると考えられます。

今後の保護活動
１．生息環境の改善
保護地である湿地の地形の改変や、繁茂する植物の管理を必要時に実施し、餌となる貝類の繁殖を促し、天敵による捕食の減少をはかります。
２．ニノシマボタルの血統の保全（他所からの持ち込み禁止）
ニノシマボタルの似島における生息は自然分布によるものか、それとも持ち込みの結果である人為的分布によるものか定かではありません。しかし、保護に当たっては、似島個体群のオリジナリティーを確保し、ブランド名に恥じない血統の保全を目的としてヘイケボタルの似島への持ち込み禁止し、この判断の一般への理解促進をはかります。
清流にすみ、大きく強く発行するゲンジボタルは多くの人々の関心を引きつけます。近年、各地で盛んに実施される”ホタル祭り”や”保護運動”は、ほとんどがゲンジボタルを対象としたものです。その影で、湿地化した休耕田や放棄水田などをおもな生活の場とし、小さくて弱い光しか発しないヘイケボタルは、ホタル好きな日本人でさえ、ともすれば忘れがちな存在となっています。しかし、広島の都市近郊域におけるヘイケボタルの希少性は、ゲンジボタル以上に高まりつつある、と私は考えています。ゲンジボタルがすむ河川は、環境の改善や保全を求める声も多く、またそれ自体が消失することはありえません。それに対し、現代において、都市近郊のヘイケボタルのおもな発生地は、人々にとって無用な湿地、不快な放棄水田と思われ、ある日突然に造成され、住宅地や資材置き場になるかもしれないからです。都市近郊にすむホタルを取り巻くこうした情勢が、ニノシマボタル保護という里人の活動の社会的意義をいっそう高めているといえるでしょう。

ホタルの里環境データ

平成１７年４月２４日(日)：快晴
・環境状況（１３：００計測）
　周辺環境：気温２３℃　　湿度３０％
　ホタル池：水温３０℃　　ｐｈ７．９

平成１７年５月２９日(日)：快晴
・環境状況（１１：００計測）
　周辺環境：気温２７℃　　湿度３６％
　ホタル池：水温２９℃　　ｐｈ６．３

平成１７年６月１１日(土)：雨のち晴れ
・環境状況（１１：００計測）
　周辺環境：気温２３℃　　湿度７２％
　ホタル池：水温２２℃　　ｐｈ６．６

平成１７年７月２４日(日)：快晴
・環境状況（１１：００計測）
　周辺環境：気温３４℃　　湿度４６％
　ホタル池：水温３０℃　　ｐｈ６．６

『広島市昆虫館　坂本　充』

里人のホンネ（自然観察・ホタルかごづくりなど）

自然にふれることができ毎回よろこんで参加しています。

（渡部　洋夫）

親子で参加して良い思いでになると思うし、何よりいろいろな方々と出会えて良かったと思います。

（行友　浩司・和江）

初めて会った人達と楽しくお話が出来ることと、今後のことになりますが離島〝似島〟の少しでも活性化になればと思っています。

（蒲原　邦夫）

どれも思い出深いですが、カンテラ作りが楽しかったですね。小学校時の工作を思い出しました。手先は器用な方ではないので少し手こずりましたが。

（三戸　文雄）

海辺の生き物観察。普通の干潟にあれだけの多くの生物がいることに驚きました。また、説明も非常にわかりやすく勉強になりました。

（土森 朗）

暗い中に光る虫、手にとると小さな虫のホタルに子どもが目を輝かせていたことが一番の思いでです。子どもが当分の間、ホタルの絵を描いているのを見てよほど印象に残ったのだと思いました。

（品川　美香）

（ホタルは）かわいくて、おもっていたより、ちいさかった。

（福田　明惟　7才）

子供達とホタルが飛ぶのを見て、子供達も喜んでいたし、私自身も心が和みました。

（土森　宣子）

あらゆる方向にホタルが飛んでおり、ホタルの住みやすい環境になったことが確認できてうれしかった。多くの人に見ていただきたいと思う。ただ今思うと竹やぶを切りすぎたかもわからない。竹やぶの中にもホタルが飛んでいるのを見たので池と竹やぶがもう少し近いとホタルが竹やぶに行きやすいのではないかと思う。

（宮本　幸枝）

（ホタルを見たのは）子供の時以来でその当時の感動が蘇った。

（荒谷　幸雄）

ニノシマボタル成育の為の竹林伐採作業です！！☆のべ３～４日間行いましたが久し振りに力が入りました。
皆様のおかげできれいに整地されましたね。

（細木　英樹）

新着情報

看板設置しました！

６月１１日(土)の里人の集い開催時にホタルの里の現地案内看板を設置する予定でしたが、前日からの雨で地盤が緩んでいたので、設置するのを見送っていました。

そこで、７月２４日(日)に地元の住田健治さんの協力を得て、「似島ホタルの里」と題した現地案内看板を設置しました。

そのほかの作業としては、５月２９日(日)に刈り込んだはずのホタル池周辺の雑草が、腰丈まで伸びていたので、住田さんのご指導のもと、草刈機を使用して身の丈１０㎝程度まで刈り込みました。

当日は、あまりの猛暑のため予定していた観察会を取り止め、早めの解散といたしました。

やはり、夏場の作業は身体に堪えました。

里人の集い開催情報

日　　程

平成１７年１０月３０日（日）
平成１８年　２月　５日（日）

集合場所＆時間

広　　島　　港　　９：２０
似島臨海少年自然の家　１０：２０

まだまだ里人募集中！

問合せ先

似島公民館　　（TEL）０８２－２５９－１１００
南区区政振興課　（TEL）０８２－２５０－８９３５

里人のつぶやき

「去年はよく雨が雨が降ったよな～。」里人のつぶやきが聞こえた。

幸いにして私がこの活動に加わってからは、快晴続きである。（暑すぎることが多いが・・・）それもそのはず、私は自称『超晴れ男』。

里人の中では、昆虫博士のSさんとメガネのTさんが『雨男』って、もっぱらの噂だけどね。

だけど、この活動が順調なのも、去年よく雨を降らしたこの二人が活躍したからじゃないかな。

なぜって？よく言うでしょ。「雨降って、地固まる」ってね。＜（ー＿ー）＞

南区魅力発見委員会　ニノシマボタルを育てる里人（Np編集部会）
南区役所市民部区政振興課　広島市南区皆実町一丁目５番４４号
電話　082-250-8935　Fax　082-252-7179　　E-mail　mi-kusei@city.hiroshima.jp
【南区みどころガイド】http://www.city.hiroshima.jp/minami/gaido/